



新潟アサヒアレックス アイスアリーナ

新潟県新潟市

新潟市初のネーミングライツ導入
本州日本海側唯一の通年営業施設
氷上スポーツの普及と競技力向上を図る

文=新潟市文化スポーツ部 スポーツ振興課 主幹 佐藤 功
写真=オフィスラ・ブーサン 八木 浩栄
(5頁下の写真は除く)

施設設計画の背景と経緯

ソチ冬季オリンピック開催直前の2014年2月1日、新潟市中心市街地の南側、サッカー・アルビレックス新潟のホームスタジアムから約2kmの位置に、本施設はオープンした。

雪国のイメージを持った県外からの来訪者が、拍子抜けするほど積雪の少ない本市であるが、天候不順な冬季のスポーツ環境の充実が、スポーツに関して市民から最も望まれている事項の一つである。

特にスケート場に関して、以前は本市内にも民間施設が存在し、市民のレジャーや氷上競技の練習の場として賑わいを見せていたが、'03年を最後に市内から姿を消すこととなった。その後からスケート場の整備を望む市民の声が市へ多く寄せられ、市では当初、民設による誘致を模索したが、多面的な検討を経て、公設民営による施設整備の基本計画を'11年に策定した。

施設の概要および特徴

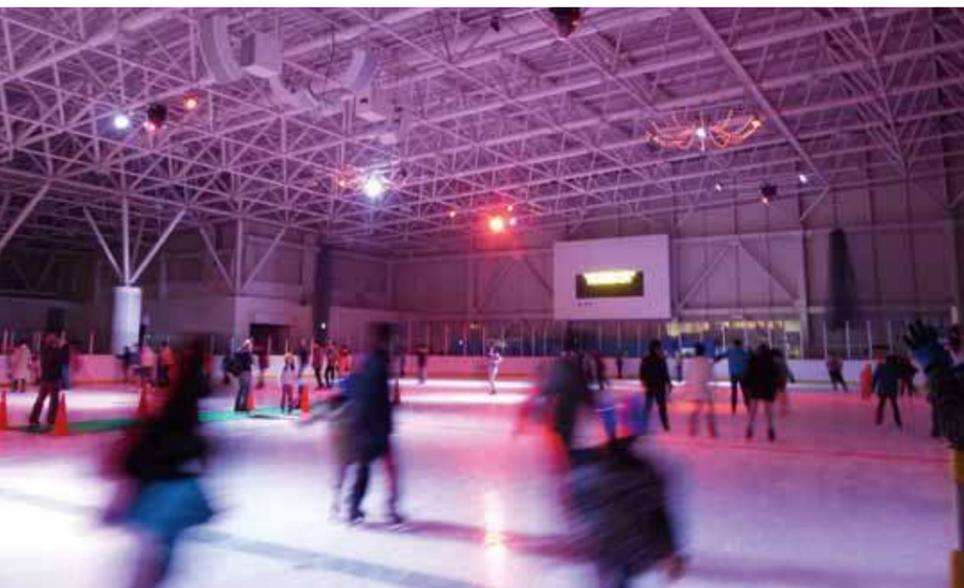
本市に経験のないスケート場の整備であるため、基本計画の策定と併せて整備手法の検討も行った。一般的な従来手法やPFIと

いう選択肢もある中、設計、施工、維持管理・運営を一括発注することで、運営事業者の民間ノウハウを設計段階から最大限に取り入れることができ、かつ、資金調達に伴う費用負担を抑えられるDBO方式を採用することとした。

その結果、フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラックに対応する国際規格のメインリンクと、カーリング3シート分のサブリンク、約1000席の観客席といった氷上スポーツに必要な機能を高気密高断熱な建物にコンバクトに収め、屋根全体と南側壁面を覆う太陽光発電パネルを設置した、環境にやさしい施設として整備することができた。

スケート場の命とも言えるリンクの製氷には、液体二酸化炭素を冷媒とする最新の冷凍設備を導入したことにより、冷却経路全体で冷媒の温度が一定となるため水の温度が均一でムラがなく、かつ、冷媒の搬出動力が従来の機器に比べて格段に少なくてすむため、高品質な製氷とランニングコストの低減を両立している。

整備期間に関しては、震災の復興事業の影響で建設事業に従事する人員や資材が不足する時期があったが、設計を含む契約の締結から16カ月で、スケジュールの遅延なく竣工を迎えることができた。



右/外観は白を基調とした色彩で、周辺環境に調和した景観となっている 上/一般利用やスケート教室などのほか、カーリングの利用も可能なサブリンク 下/光と音による演出で幻想的なリンク空間に

10時（夏季は正午）から18時まででは、予約なしで自由に滑走できる個人利用の時間帯。18時から翌朝10時までは、主に貸し切り練習を行う専用利用の時間帯となっている。

個人利用の利用料金は、貸し靴付きで一般が1回1500円、小中高生や65歳以上は1000円、未就学児は500円。回数券は2回分の料金で3回利用でき、さらに割引率の高い定期券も用意した。貸し切りで練習利用する場合は、メインリンクが1時間2万円、サブリンクは1万5000円（1シート5000円）で提供している。

オープン直後の2カ月間はオリンピック効果も相まって、予想以上の利用者数となった。フィギュアスケートやアイスホッケー、カーリングの教室にも多くの参加者が集っているため、いずれは本施設が氷上スポーツのメッカとなり、将来はオリンピック選手が生まれることも期待している。

また、東京から上越新幹線で約2時間の新潟駅から車で15分の場所があり、練習環境が不足気味の関東圏や、北陸、東北の各方面からつながる高速道路の新潟中央ICにも至近であるため、通年型の特徴を生かして県外の競技者にも活用していただきたい。

施設の管理および利用方法について

本施設は、本州日本海側で唯一、定休日なしの通年営業で氷上スポーツを楽しめる施設であり、24時間対応で利用者のニーズに応えることができる。

施設の運営方法について

運営は、本施設の維持管理運営を行うために設立された特別目的会社である(株)新潟パティネレジャーが、'29年度末まで指定管理者として実施する。

本市において約10年間の施設的なブランドを取り戻し、氷上スポーツの普及と競技力の向上を図るため、スケート場管理の最大手である親会社から受け継いだノウハウを発揮して、地元競技団体とも連携した運営を始めたところである。

なお、本施設では利用者拡大のインセンティブが働きやすい利用料金制を導入しており、運営にかかる経費は、全額を施設の利用料金と太陽光発電の売電収入、教室参加費等により賄うこととしている。

なお、施設名の「新潟アサヒアレックスアイスアリーナ」は、本市初のネーミングライツの導入により命名されたものである。